

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 4 月 30 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	水越 楓

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)		
北海道・網走		
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)		
北海道沿岸に來遊するシャチの音響研究		
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)		
平成 26 年 4 月 9 日 ~ 平成 26 年 4 月 13 日 (5 日間)		
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)		
北海道シャチ大学連合		
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)		
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の出張では、網走沖に出没するシャチの個体識別及び鳴音の録音を試みるために渡航した。スケジュールは4/9 網走市入り、10~12 三日間乗船、13 帰京というものであった。</p> <p>船のチャーターは3日間の予定であり、天候にも恵まれ全日出航することが出来た。5:30 出航、16:00~16:30 帰港であった。調査は網走ネイチャークルーズの協力で、観光船チパシリにて行った。初日・二日目はオホーツク海では珍しく南西の風で少し時化しており、探鯨が困難であった。三日目は晴天ほぼ無風の風で視界が良かった。</p> <p>昨年度とは異なりすでに流氷が去った網走沖だったが、残念ながら三日間の出航ではシャチを発見することが出来なかった。特に三日目は視界が良かったにもかかわらず発見できなかったことから、この期間中この海域にシャチはいなかったということが推測される。例年この海域には五月過ぎに現れるイシイルカが2群6頭発見されたこと、ミンククジラが例年よりも少ないことが。他の発見哺乳類は、アザラシ(種不明)、キタオットセイであった。</p> <p>調査前に近隣の村などにてシャチの目撃例があったにもかかわらず発見できなかったことは非常に残念であった。期間中、漁船などでの発見もなかったため、流氷が去り一度網走沖に來遊したものの何らかの要因で再び沖もしくは別の海域に移動してしまったものと考えられる。五月末から知床半島の反対側である羅臼で行う調査までに、シャチが戻ってきてくれることを願うばかりである。</p>		
		
写真 1 : 知床岬	写真 2 : チパシリ	写真 3 : 乗船メンバー
6. その他 (特記事項など)		
齋野重夫さま、網走ネイチャークルーズのみなさまに感謝いたします。		